

第2学年・学年だより

第 4 号

令和2年5月 1日(金)

調布市立第三中学校

第 2 学 年

# 風のみち

## 道具の使い方 SNSは人を傷 つけ攻撃するものではない

君たちが持っている SNS を発信するための道具、スマホやパソコン。ネットを見ると毎日のように人を攻撃する発信ばかりが目にとまります。自分が思うようにいかないと他者を攻撃して憂さをはらす。これは子どもでも大人でも同じみたいです。災害というのは時期や人を選びません。しかし、このような時ほど求められるのは人間の尊厳です。人が善であるか悪であるかなどという論議はここではしませんが、このような緊急時にこそ問われる人間性を考えた時に言えるのは、東日本大震災の時と同じ、頑張っている人や困難に立ち向かう人の素晴らしさを我が物にして共有すること。簡単に言えば、誰かの頑張りをたたえ、励まし、攻撃や悪口よりも人と人の結束を強め、善意の輪を広げることなのです。そのためには、まず自分がしっかりすること。自身が揺るがないことです。とはいっても不安の不透明な中での生活です。ここで、もし絆を強めようと思ったら最新の道具である SNS、IT 器機という道具を正しく有効に使うことです。中学生はテレワークをする訳ではありません。実際その環境が整っていない人もいますから。しかし、もし LINE などやりとりをするなら不満のぶつけ合いをすることは自身をも疲労させ、希望を捨てる結果になります。どうせなら希望を語るようにしてみませんか？「今日は勉強をここまで頑張った。」→「分からないことを教えてよ。」「外に出られず苦しい。」→「俺はこうしているよ。おまえもやってみたら？」「もう学校に行くのだからなくなった。」→「また会えるじゃん。」このような建設的な本音を引っ張り出すことです。

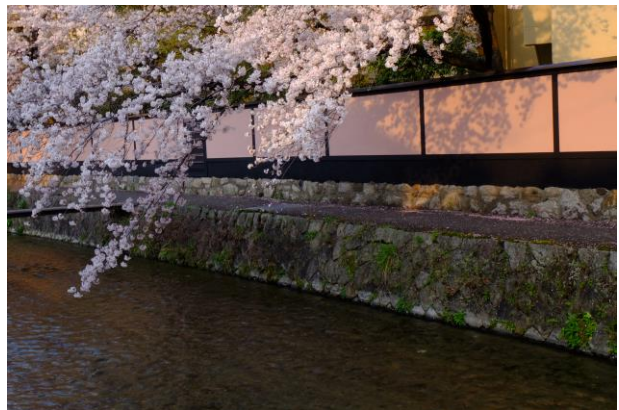
道具というのは人類最古の道具である石器から土器、木の器。ここまでは人々の生活を豊かにすることを目的に発明されました。しかしやがて人を支配したり屈服させたり、強さを見せつける道具も発明されます。本来道具の原点は生活を守る、人の命を守る。ここから来ているはずです。今、クラウドなんとかとかの AI 系の道具が使われています。しかし、AI がコロナに勝てるか？ 勝てるならとっくにやっているはずです。今、中学生でもコロナに対抗するための道具は「人の想い」「絆を深める」「困難を乗り越えるための精神的な支え」これを発信するための器機だと思うのです。間違っても、逆の方向で使ってはならないと思うのです。先に述べたように、人を攻撃して、うさばらし、悪口による連帯。これでは何のために道具が使われているのかわかりません。道具本来の意義がなくなります。

# 小さなものに気づくこと

スマホやパソコンもない。そういう人もいます。しかし、人を勇気づけるものは周囲に沢山あるはずです。春になれば花は咲く。今年もコロナに負けずに桜やツツジは咲いています。たとえば外で身体を動かす時に少しだけ、周囲を見てみませんか。いつものように新緑の時期はやってきます。青い空も広がっています。今までは忙しくてそんなことに気づかなかった人も、見ようとすれば人間界以外の自然界の偉大な美しさ、不変の美に苦尽くはずです。春になればいつものように桜は咲きます。夕暮れ時になれば夕陽が桜の影をオレンジに染まった白い塀に映し出し、シルエットになります。人間は見よう、気づこう



とすればふだん見ることが出来ない景色にも出会えるのです。ただ身体を鍛える目的で外を走っている人でも、桜堤通りの桜のトンネルや多摩川沿いのサイクリングロードに広がる空や、夕暮れの富士山のシルエットの美しさに気づくと思います。それらは、私たちに元気をくれます。いや、そう思えること自体が大切なことなのです。



美しいと思えるあなたの心が美しい。たしかこんな言葉がありました。こんな詩もあります。三年生でよく歌う合唱曲「信じる」の一節です。



葉末（はずえ）の露がきらめく朝に  
何をみつめる小鹿のひとみ

すべてのものが日々新しい  
そんな世界を私は信じる  
谷川俊太郎「信じる」

信じることは自身の意志です。すべてのものが新しい日々が来ることを信じる。それはひいては自分を信じることに他ならないのです。あなたのまわりにある小さなものに気づくと、あなたの人生も少し変わってくるかもしれません。